

ほくじょう ながま
牧場の 仲間たちの 暮らし

ちがいを そんちょう 尊重する



ある日、ベニーが やって来た。
ヤギの子が 1頭だけで、やって来た。
ベニーは いつも 活気に 満ちあふれ、
元気いっぱい 大はしゃぎ。

切り株の 上に 乗ったり、
そばえたつ 岩に 登ったり。

ベニーは いつも、
ほかの 動物たちより 高い 所に いる。

ちっちゃな ヤギの子は、
この 牧場に やって来たばかり。
なのに みんなより 高い 所にばかり いて、
それが 気に入らない 者が いた。





ビンゴは、馬の子。

自分がとても立派だと思ってる。

何しろ、ビンゴはいつでも、
だれより速く、飛ぶように走れるからね。



「新入りベニー、

あなたは自分を何様だと思ってるの？

ただの子ヤギじゃないの。

群れのうちの一匹に過ぎないのに。」

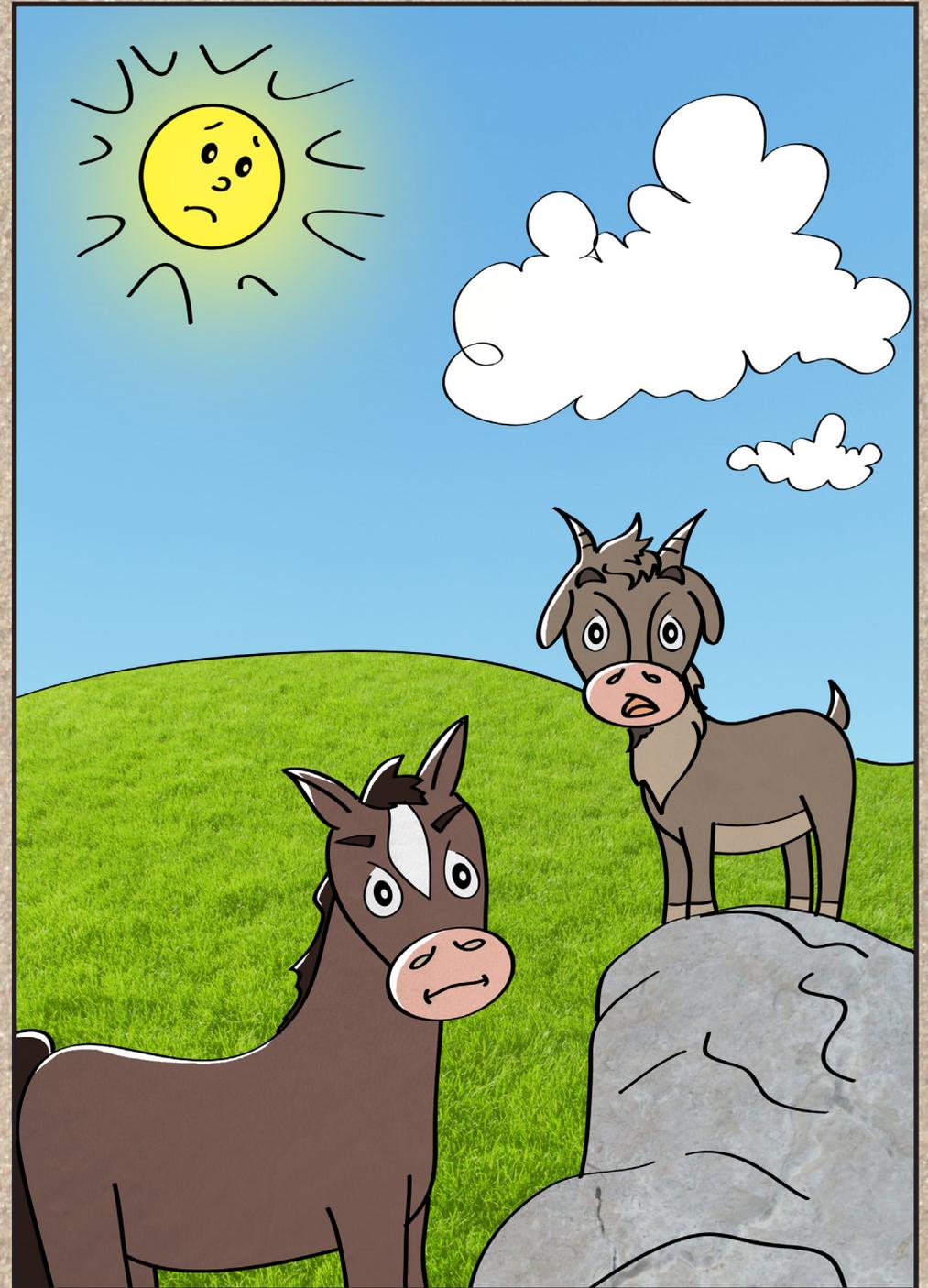


「ほくがすばしっこいのは、生まれつき。

ヤギは、みんなそうなんだ。

おいでよ、ここに上がってみたら？

手伝ってあげるから。」

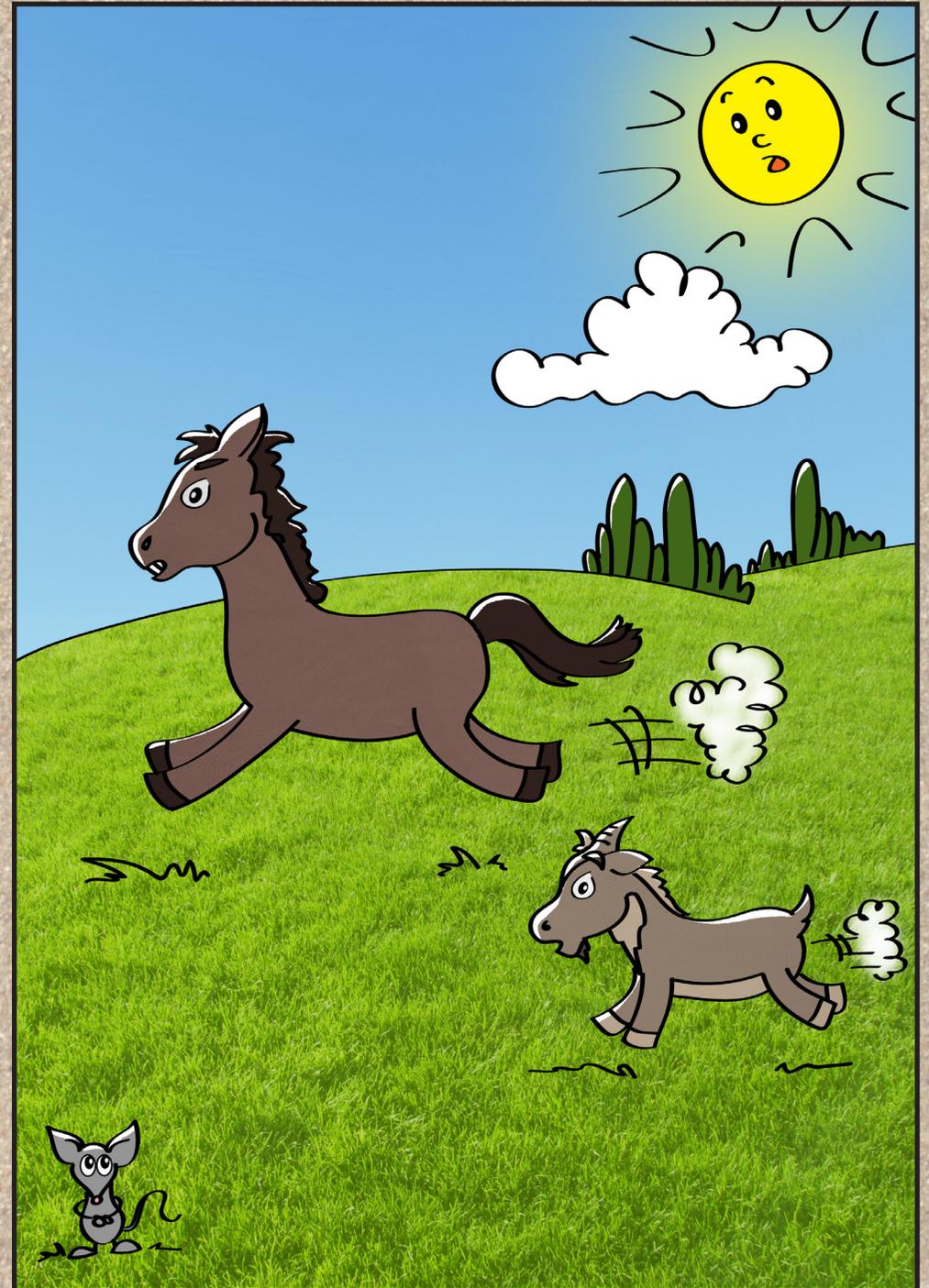




「それより、^{きょうそう}競争しましょうよ！
^{ぜったい}絶対、わたしの ^{はや}ほうが ^{はや}速いわよ。
あなたには、^ま負けないから。
わたしの ^{すな}砂ほこりを かぶって うんざりするだけね。」



「^{いち}位置に ^つ着いて、よーい、ドン！」
^{とう}2頭とも、あつという ^ま間に ^{はし}走って行った。
ベニーの ^{はし}走りっぷりは すばらしかった。
あんなに ^{はや}速く ^{はし}走れるなんてね。
だけど、ビンゴは ^{しんばい}ちつとも 心配していない。
ベニーは そのうち へたばるだろうから。
^{とう}2頭が ^{ほくじょう}牧場を ^{はし}走っていると、
ビンゴの ^{すな}けった 砂ほこりで ベニーが むせた。

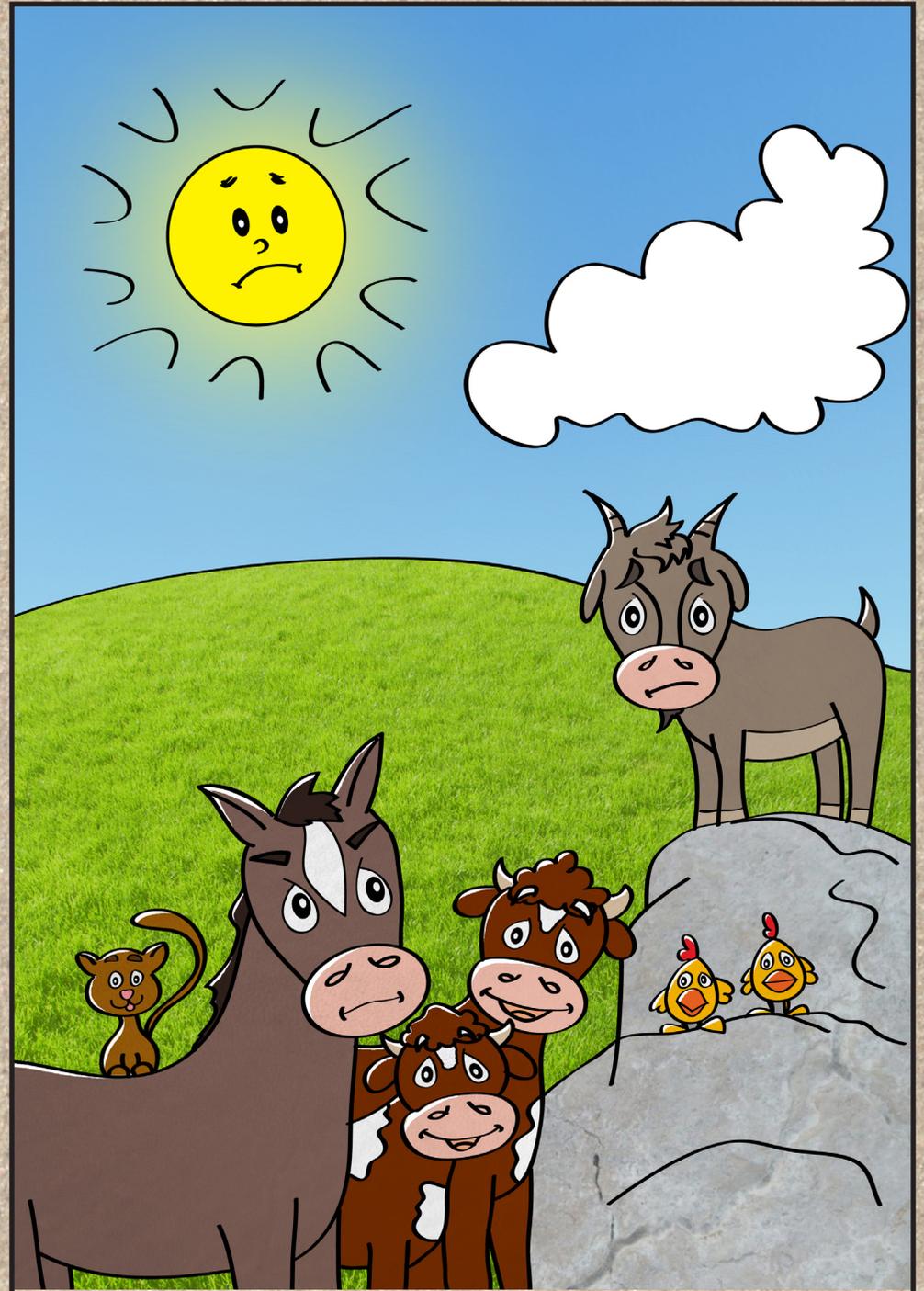




するとビンゴがベニーを ^{わら}あざ笑い、
ベニーを ^{はじ}ばかにし始めた。
あわれなベニーは ^たがっかりし、
やがて ^{たいさん}あきらめ退散してしまった。

^{ほくしょう} 牧場の ^{わが}若い ^{どうぶつ}動物たちは
^{まわ}ビンゴの ^{あつ}周りに ^あ集まった。
まるで ^{じょうさま}女王様あつがいの ^{ことば}ように、
ビンゴに ^あほめ言葉を ^あ浴びせた。

ベニーには ^ひだれも ^む振り向きも ^{あそ}しない。
ひとりぼっちに ^{なが}なっちゃったんだ。
^{どうぶつ}動物たちは ^{あそ}いっしょに ^{あそ}遊んで ^{あそ}いたけれど、
ベニーは ^{なが}仲間 ^{あそ}外れ ^{あそ}だった。





「^{いっさい}一体、^{なん}何なの、この ^あねたみ^あ合いは？
わたしたちの ^{ほくじょう}牧場で、^おこんな ^おことが ^お起きるとは？
ベニーを ^{ながまはず}仲間外れに ^{いじわる}するなんて、意地悪よ。」

まあ、ベニーは ^{かあ}ひとりぼっち^{かあ}だわ。
お母さんも ^{とも}いない ^{いぎ}というのに、
友だちにも ^{いぎ}なって ^{いぎ}あげないなんて、
さびしくて、息が ^{いぎ}つまって ^{いぎ}しまうわ。」



「でも、^{もともと}元々は ^いと ^い言え^いば、ベニーの ^いせい^いよ。
いつも ^{たか}高い ^{ところ}所に ^{のほ}登^{のほ}っているんだもの。
だけど、^{きょうそう}競争に ^ま負^まけてからは、
^{かって}勝手に ^な泣^なき言^なを ^{こと}言^{こと}ってるんだわ。」





うま はし す
「馬は 走るのが 好きだし、
たし はや はし
確かに 速く 走れるわ。
こうし
子牛は、はしゃぐのが 好き。
くさはら あそ まわ
だから、草原で 遊び回るのね。」

こ
だけど、ベニーは 子ヤギ。
ふ つう
普通 ヤギが することをしてる だけだわ。
けしき
景色を ながめようと、
たが ところ のほ
高い 所に 登ったりね。」

ひょうどう
だから あなたたちも、平等に しなさい。
バランス・コンテストを してみたら？
そして、ベニーが 勝ったら
ほこ きも
誇らしい 気持ちに させて あげるのよ。」





それで、ビンゴも ^{ようじん} 用心しながら
^{いわ} 岩の ^{うえ} 上に ^あ 上がった。

^{あし} 足の ^ほ ふみ場は あったけれど、
バランスを ^{たも} 保つのは むずがしかった。



^{いっほう} 一方 ベニーは、^{いわ} 岩の ^{うえ} 上に ^と 飛び ^の 乗った。
ベニーにとっては、^{まったく} 全く ^{ふつう} 普通のことだからね。
^{かるがる} 軽々と、^{いわ} 岩の ^{のほ} てっぺんまで ^{のほ} 登ったよ。
^{じつ} 実に、^{みごと} 見事な ^{のほ} 登りっぷりだ。

スターが ビンゴを ^み ちらっと 見ると、
はずがしくて うなだれている。
^ま 負けたのが ^あ ぐやしいんじゃ なくて、
^あ 争いの ^し もとが ^{ぶん} 自分だったって ^わ 分かったんだ。





ながなお
「仲直りを しなくちゃね。
ベニーにも 敬意を はらわないと。
ベニー、もし 友だちになっ てもらえるなら、
わたしは うれしいわ。」



ちょっと 立ち止まって、
いっしょに 考えてみよう。
だれかと 友だちになるのを さけたり、
えらそうに 振るまったり した ことは あるかな？

もし あるなら、ビンゴみたいに、
人の 良い面を 見つけるように しよう。
きっと、楽しい 友情が 君を 待っているよ。
今まで 思いちがいを していた 人の中 にもね。

